

図書館員が選んだおすすめ本 100 冊

ヨコテ



Yokote City Librarians **One** Hundred Recommended Books 2020



ラストページまで
駆け抜けて
2020・第74回 読書週間
10/27～11/9



たくさんの中からどんな本を読んだらいいか迷ってしまう、
そんな人に、本を選ぶきっかけとなるブックリストを作成しました。
横手市立図書館で働く図書館員 22 人がそれぞれに選んだ一冊です。

これ面白いから読んでみて！私が選んだ本の話をしてしましよう！
そんな想いを持って図書館でお待ちしています。

あなたの一冊に出会ってほしい。
みなさまに本との新たな出会いが訪れますように。

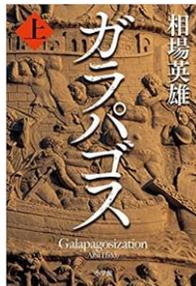
横手市立図書館

※本の紹介文はニックネームで掲載しています。

※掲載の 100 冊はすべて市内の図書館で借りることができます。
お近くの図書館にないときは予約してください。お取り寄せいたします。

『ガラパゴス上・下』

相場 英雄/著 小学館 2016



遺体身元不明の殺人事件からはじまるミステリー。大企業の実態や警察との歪んだ関係、派遣労働者の労働環境など生々しい描写が胸に刺さる。息苦しさの中でひたむきに捜査する田川刑事の存在が物語の救いになっている。(ことら)

913.6ア

『聖母』

秋吉 理香子/著 双葉社 2015



辛い不妊治療。残虐な幼児殺人事件。性差を超えたい女刑事。潔癖な高校生。性犯罪歴のある男。乱暴な男の子。完全な証拠隠滅。視点を変えた発想。子供を守る強烈な母性。それぞれのピースが合わさった時、驚きの結末が! (Rin)

913.6ア

『駅物語』

朱野 帰子/著 講談社 2013



東本鉄の新社員若菜は、ホーム監視でも改札業務でも失敗ばかり。定刻発車と乗降客の安全のため奮闘するも、泥酔客、キセル、駆け込み乗車、そして人身事故などトラブル多発。東京駅を行き交う人と支える人を描いた作品。(A2)

913.6ア

『類』

朝井 まかて/著 集英社 2020



森鷗外の子・類。好きなことに没頭していた青年は、やがて父と同じ道を歩み始める。しかし時代の波はそれを許さず、人生を翻弄されることに。ただ家族を愛し、まっすぐに生きた男の物語。(砂糖さん)

913.6ア

『平城京』

安部 龍太郎/著 KADOKAWA 2018



新都造営を任された阿倍船人が、その過程で次々と起こる事件に巻き込まれていく歴史ミステリー。阿倍一族の再興をかけた国家プロジェクトに妨害工作を仕掛ける遷都反対派、はたしてその黒幕とは一。(T.T)

913.6ア

『産む、産まない、産めない』

甘糟 りり子/著 講談社 2014



四十女の未婚での妊娠、血の繋がらない母と息子、夫の育休、不妊、死産、娘の妊娠、障がい児のテーマから、“子供を産むこと”の意味を考えさせられる。子供の有無に関わらず、全ての女性が生きやすい社会になって欲しい。(ノラネコ)

913.6ア

『オケ老人!』

荒木 源/著 小学館 2008



913.6ア

よく似た名前の楽団と間違えて、入団したのは高齢者ばかりのオーケストラ。辞め時を逃し、色々な意味で危ういご老人たちを何とかしようと奔走する主人公。当人たちの知らぬところでは国家機密が絡んできて…。

(おこめ)

『キケン』

有川 浩/著 新潮社 2010



913.6ア

恋に文化祭にロボット相撲!大学きっての危険人物である上野直也率いる機械制御研究部。黄金期を築いた4人の部員を中心に巻き起こされる青春劇。学生時代を思い出し懐かしむ、少し寂しくも微笑ましい物語。(かぼちゃ)

『亜愛一郎の狼狽』

泡坂 妻夫/著 東京創元社 1978



913.6ア

長身でイケメンのカメラマン・亜愛一郎。しかし動きはギクシャクしていてドジだらけの三枚目キャラ。なぜかいつも事件に遭遇し、たちまちその真相を解明する。ミステリー界の巨匠・泡坂妻夫のデビュー作を含む短編集。(モフモフ)

『本のエンドロール』

安藤 祐介/著 講談社 2018



913.6ア

印刷会社とは本を造るメーカーであることを自負する営業マンが主人公。本が出来るまでの様々な工程や、それに従事する技術者たちを描いた作品。この本に登場する5冊の本造りを通して、読書への愛を深めてみては?(T.T)

『I Love Father』

冲方 丁 ほか/著 宝島社 2017



913.6ア

“父”を題材とした5篇のアンソロジー。様々な“父”の姿は、時にホロリと、時に意外な展開へ、そして時にミステリー調に描かれる。一冊でいろいろな感情が得られるのは短編集ならではの醍醐味。

(ノラネコ)

『民王』

池井戸 潤/著 ポプラ社 2010



913.6イ

総理大臣の父と、中身が入り替わってしまった翔は興味のない政治に関わる羽目に。一方、父・泰山は息子の代わりに受けた面接で苦勞していた。度重なる不祥事に加え、政界の陰謀に巻き込まれていく2人の結末は、いかに?(ずみやん)

『その話は今日はやめておきましょう』

井上 荒野/著 毎日新聞出版 2018



913.6 イ

定年後の穏やかな生活を送っていた老夫婦は、夫の骨折をきっかけに、老いに不安を感じはじめる。細々した家事を担う青年を雇うが、素性の知れない青年の行動に懐疑的になる妻。夫婦の心の微細な動きが丁寧に描かれた一冊。(菅さん)

『少女たちは夜歩く』

宇佐美 まこと/著 実業之日本社 2018



913.6 ウ

城山を中心にした街…そこはまるで異界への入り口のように。時間軸こそ前後しているものの繋がりを持つ10篇の連作短編集。ミステリーやホラー、ファンタジーが入り混じった独特な世界観に引き込まれること間違いなし!(ノラネコ)

『女王様と私』

歌野 晶午/著 角川書店 2005



913.6 ウ

ある日、数馬は美少女・来未に声をかけられた。引け目を感じ、彼女の命令に逆らえず取引に応じる。ところが来未の同級生が相次いで殺され、数馬は妹の絵夢と事件を探り始める。冴えないニートの男が、大活躍?(A2)

『本バスめぐりん。』

大崎 梢/著 東京創元社 2016



913.6 オ

種川市の移動図書館(通称「本バス」)「めぐりん号」で市内幾つかの「ステーション」を巡るのは、図書館司書のウメちゃんと運転手のテルさん。二人が向かう先には、様々な人間模様が見られる中に、多くの謎が潜んでいた。(Monet)

『ほどけるとける』

大島 真寿美/著 角川書店 2006



913.6 オ

高校を中退した美和は、祖父が営む銭湯「大和湯」でバイトを始めた。大和湯と自宅を往復するだけの日々を過ごし、自分をどうしようもないと思っていたが、一つの恋をきっかけに、夢に向かって少しずつ歩み出す。(Monet)

『あつあつを召し上げれ』

小川 糸/著 新潮社 2011



913.6 オ

「食」にまつわる切ない7つの短編集。主人公の人生の分岐点に鍵となる料理が登場し、話の流れに重要な役割を果たしている。きりたんぼ、ぶたばら飯、おみそ汁など料理の巧みな表現も素晴らしい。(パセリ)

『家族写真』

荻原 浩/著 講談社 2013



913.6 オ

娘の結婚、加齢、病気…。人生を見つめ直す話やコミカルで笑える話など、等身大の人間模様や家族の本音が。中高年の男性視点で「家族」の人間ドラマを描く、笑いあり涙ありの短編小説。(Y.K)

『最悪』

奥田 英朗/著 講談社 1999



913.6 オ

零細町工場主と若いチンピラと普通の銀行OL。少しの判断ミスと間の悪さで運命が下降線を辿っていた赤の他人の3人が出会った時、怒涛の勢いで坂道を転がり落ちる先は「最悪」。ページを捲る手が止まらない人間ドラマ。(Rin)

『みつばの郵便屋さん』

小野寺 史宜/著 ポプラ社 2012

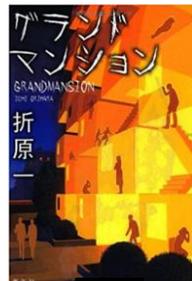


913.6 オ

春一番のいたずらでとんできた女物の下着。そのまま無視してしまう人が大半なのに心優しい郵便配達員の平本秋宏は落し物があると知らせに行き解決。そんなエッセンシャルワーカーとみつばの町の人々との心温まる連作。(⊕)

『グランドマンション』

折原 一/著 光文社 2013

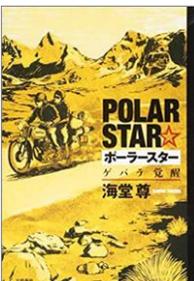


913.6 オ

おせっかいな民生委員にせつつかれ、グランドマンション一番館の管理人は住民の安否確認や迷惑行為の対応に追われる。だが、事件が次々と起こり空室が増えていってしまう。現代社会の縮図・集合住宅が舞台の8つの話。(A2)

『ポーラスター ゲバラ覚醒』

海堂 尊/著 文藝春秋 2016



913.6 カ

医学生のエルネストは、友人とバイクで南米縦断の旅に出る。そこには社会不安、独裁政権、貧困など南米特有の問題があった。様々な人と出会い、彼の心に革命の火が灯る。若き日のチェ・ゲバラの青春を描いた物語。(わいわい)

『ワイルド・ソウル』

垣根 涼介/著 幻冬舎 2003



913.6 カ

戦後、夢と希望を持ちブラジルに渡った日系移民。そこは植物の育たない強酸性の土地だった。外務省に見捨てられ、貧困と伝染病で悲運の死を遂げた同胞たち。生き残った男たちは仕返しをするべく日本である計画を立てる。(わいわい)

『八日目の蟬』

角田 光代/著 中央公論新社 2007



913.6カ

不倫相手の赤ん坊を誘拐した希和子は自分を母親だと思込ませ、育てようとするが…。逃亡の末に、理性と母性の狭間で希和子が出した答えとは…。「母親」のあるべき姿、歪んだ「母性」が生んだ悲劇の結末に注目。(ずみやん)

『柿のへた』

梶 よう子/著 集英社 2011



913.6カ

幕府の御薬園でもっぱらその管理や畑づくりに従事する同心・水上草介。何かと持ち上がる厄介事を解決し、少しずつ成長していく連作短編時代小説。上役の娘で剣術好きな千歳との恋の行方も気になるところ。(モフモフ)

『猫の惑星』

梶尾 真治/著 PHP 研究所 2015



913.6カ

超能力を持つ子どもが集められた秘密組織で外の世界を知らずに育ったイクオ。ある日会話できる猫ウリに会い、組織の恐ろしい秘密を知ってしまう。ウリと共に組織を脱走したイクオは命を狙われながらも旅を続ける。(I.K)

『飲めば都』

北村 薫/著 新潮社 2011



913.6キ

若手文芸編集者の小酒井都。決して酒に弱くはないが、酔っ払うと過激な一面が顔を出す。甘い、ほろ苦い、できればもう飲みたくない…様々な場面で酒を味わいながら成長する都の物語。作中の言葉遊びや蘊蓄も楽しい一冊。(おこめ)

『舶来屋』

幸田 真音/著 新潮社 2009



913.6コ

赤と緑のストライプのトランク、ペイズリー模様のショール、艶やかな革のバッグ…異国の美しいものに魅せられた青年は、戦後日本にブランド製品の価値を芽吹かせる。サンモトヤマ創業者がモデルの伝記的小説。(ふっくん)

『胡蝶殺し』

近藤 史恵/著 小学館 2014



913.6コ

歌舞伎役者の萩太郎は、父を亡くし後ろ盾のなくなった御曹司、秋司の後見人になる。天賦の才能を持った秋司と同じ年の息子俊介。二人の初舞台目前に辛い事件が…。梨園に生まれた運命に付す、才能や運、葛藤を描く。(おこめ)

『五十坂家の百年』

斉木 香津/著 中央公論新社 2017



913.6 ㄑ

古い武家屋敷に住む五十坂家の四世代に渡る悲劇。双子の老姉妹が崖から飛び降りたところから物語は幕を開ける。疎遠になった親戚が集まり、四体の遺体を発見…。この遺体は誰なのか？隠してきた秘密が明らかされる。(ノラネコ)

『九十九藤 (つづらふじ)』

西條 奈加/著 集英社 2016



913.6 ㄑ

傾きかけた口入屋の立て直しを任されたお藤。江戸の常識を覆す策を打ち出すも、同業者の妬みを買いとんでもない騒動へと発展してしまう。何事にも屈しないお藤とそれを支える人々の生き様が胸に響く、痛快な時代小説。(S)

『ボス・イズ・バック』

笹本 稜平/著 光文社 2015



913.6 ㄑ

やぐざをお得意様とするしががない私立探偵。馴染みの組長や腐れ縁の悪徳刑事、俗にまみれた和尚が持ち込む厄介な依頼。悪戦苦闘しながら依頼解決に走り回る。表題ほか5篇の Comedy 連作短編集。シリーズ第2作。(まる。)

『カポネ』

佐藤 賢一/著 角川書店 2005



913.6 ㄑ

幼少期からマフィアに憧れていた少年は、のちにアメリカ裏社会のドンに成長する。情に厚く、ビジネスに長けた男は本当に悪人なのか。闇酒商売で巨万の富を築いたアル・カポネと、それを追う捜査官の執念を描く。(わいわい)

『償いの椅子』

沢木 冬吾/著 角川書店 2003



913.6 ㄑ

刑事の能見は、事件を追う共に戦った親代わりと慕う有働を亡くす。銃撃をうけ半身不随になった能見が、事件の真相を探り、復讐に燃え、敵を次々に追い込んでゆくハードボイルド小説。垣間見える能見の優しさも物語を熱くする。(菅さん)

『ぼぎわんが、来る』

澤村 伊智/著 KADOKAWA 2018



913.6 ㄑ

亡き祖父が恐れた化物“ぼぎわん”が再び姿を現した。幸せな一家を襲う恐ろしい怪異の正体とは。語り手が夫から妻へ交代した時、この物語の全く別の姿が見えてくる。霊能者比嘉姉妹シリーズ第1作。(I.K)

『ともにがんばりましょう』

塩田 武士/著 講談社 2012



913.6シ

上司に丸め込まれ労働組合の教宣部長を引き受けてしまった大阪の新聞記者・武井。筆は早い極度のあがり症で、人前に立つことも、激論交わす団体交渉も緊張の連続。気概溢れる仲間達に刺激を受け成長していく青年の物語。(A2)

『朝顔はまだ咲かない』

柴田 よしき/著 東京創元社 2007



913.6シ

小夏はひきこもり歴3年の19歳。唯一の親友・秋が持ちこむ恋バナと小さな謎解きをきっかけに、苦しみながらも再び外の世界へと目を向け始める。少女たちの恋と成長を描いた青春ミステリー。(I.K)

『地面師たち』

新庄 耕/著 集英社 2019



913.6シ

社会を驚愕させた巨額不動産取引詐欺を彷彿させる。地面師は知能犯で冷酷、相手だけでなく共犯者さえも欺く徹底ぶり。被害者はどのように騙され、追い込まれていくのか。犯罪の内側を描いた社会派サスペンス。(ことら)

『無言の旅人』

仙川 環/著 幻冬舎 2008



913.6セ

結婚直前に最愛の人が事故で意識不明に。延命治療を拒否する本人の尊厳死要望書が見つかるが、それを初めて知った家族と婚約者の公子は簡単に承諾できない。病院や謎の男も巻き込み、患者の意思と家族の願いの行方は…。(Rin)

『震える天秤』

染井 為人/著 KADOKAWA 2019



913.6ソ

フリーライターの俊藤律は、高齢ドライバーによる死亡事故の取材のため加害者の村を訪ねるが、律に対する村人たちの不自然な態度に事故への疑念が深まる。地道な取材を続け真実を知った律が最後にくだした決断とは。(パセリ)

『首都感染』

高嶋 哲夫/著 講談社 2010



913.6タ

20XX年、強毒性のインフルエンザが世界中で大流行する。致死性の高いこのウイルスを封じるべく、日本は感染者が蔓延しはじめた首都・東京の封鎖を決行する。日本の決断の行方はどのような未来へ向かうのか。(T)

『語らいサンドイッチ』

谷 瑞恵/著 KADOKAWA 2020



913.6タ

姉妹が営む小さなサンドイッチ専門店は、ささくれた心を優しく包んでくれる不思議な場所。サンドイッチでつながる人と人の縁が温くほのぼのする物語。フィッシュソーセージサンドなど登場するメニューも魅力的。シリーズ第2作。(こたら)

『ギフト』

日明 恵/著 双葉社 2008



913.6タ

レンタルビデオ店で働く元刑事の須賀原はある日ホラー棚の前で涙を流す少年に出会う。その少年に触れた瞬間、須賀原の目には死者が映り…死者に縛られていた2人が未練や謎を解決する中で未来に向かって一歩踏み出す物語。(かぼちゃ)

『暗鬼夜行』

月村 了衛/著 毎日新聞出版 2020



913.6ツ

学校代表の読書感想文に突如持ち上がった盗作疑惑。盗作の真偽もSNSで情報を流した犯人も分からないまま物語は進む。感想文の指導を担当した教師・汐野は、騒動収束のため奔走するが―。疑心渦巻くサスペンス。(S)

『とにかくうちに帰ります』

津村 記久子/著 新潮社 2012



913.6ツ

会社員の日常のひとコマを描いた短編集。職場の微妙な人間関係やモヤっとする場面の切り取り方は絶妙。表題作では、豪雨で帰宅の足を失い、帰りたい一心でひたすら歩き続ける人々の姿が描かれている。(S)

『水を縫う』

寺地 はるな/著 集英社 2020



913.6テ

刺繍の好きな弟、可愛いが苦手な姉、愛情表現がヘタな母、母に離婚された父。ジェンダーの本かと思いきや、イマドキ家族の再生物語。皆、優しく、特に姉の婚約者は本当に面倒くさい彼女を上手く包んでくれる偉い男。(㊦)

『チーム』

堂場 瞬一/著 実業之日本社 2008



913.6ト

自校での出場が叶わない選手らを集めた、箱根駅伝の出場校のひとつである学連選抜。そのチームの主将に任命された浦大地を中心に、寄せ集めメンバーの闘う姿を描く。襷をつなぐことで、彼らが掴むものとは。(T)

『王朝序曲 (上・下)』

永井 路子/著 角川書店 1983



913.6ナ

藤原北家の真夏と冬嗣の兄弟は、桓武天皇の子平城天皇と嵯峨天皇にそれぞれ仕え、血で血を洗う奈良朝から藤原氏の天下となる平安朝の幕を開ける。勝者となった冬嗣は「千家花ならぬはなし」という自作の詩を思い出す。(⊕)

『傍聞き』

長岡 弘樹/著 双葉社 2008



913.6ナ

主人公の啓子は強行犯係の刑事。犯人を追いつつもストーカーに怯え、娘の安全に苦慮する。漏れ聞き効果を表す「傍聞き」。事件解決のキーワードだ。表題含む4篇のミステリーは、登場人物の人間臭さに共感し楽しめる。(菅さん)

『消失グラデーション』

長沢 樹/著 角川書店 2011



913.6ナ

高校2年の椎名は、屋上から転落した同じバスケット部の綱川を発見する。しかし落ちた綱川がなぜか消えてしまった。椎名はクラスメイトの樋口とともに、この事件の真相を追う。ラストに驚きの青春ミステリー。(T)

『鳩の栖』

長野 まゆみ/著 集英社 1996



913.6ナ

中学生の少年が主人公の短編集。初めて心を開けた級友が死を目の前にしていたことを知る『鳩の栖』。手放したくないものがありながらも、それを叶える術を持たずに揺らぐ少年たちの想いは胸がきしむほど切なく、儂い。(おこめ)

『R 帝国』

中村 文則/著 中央公論社 2020

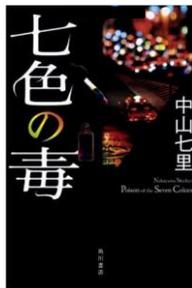


913.6ナ

人工知能を搭載した携帯電話と共に生活をする近未来。戦争は突然始まる。止まらない空爆、攻め寄せる軍隊、そして戦争の裏を知る“党”の思惑。現実の延長線上にあるかのような管理された世界に平和は訪れるのか。(T.T)

『七色の毒』

中山 七里/著 角川書店 2013



913.6ナ

女には騙されるが、男の嘘は必ず見抜けるという刑事が事件に挑む。事件の事実=真相とは限らない。真相の裏側を暴き出し、善人に隠された強烈な悪意に迫る。心の奥底に沈んだ毒を描き出す性悪説に基づく短編ミステリー。(まる。)

『おまじない』

西 加奈子/著 筑摩書房 2018

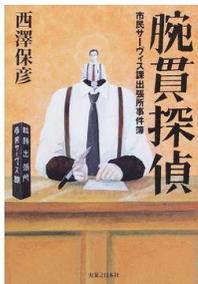


913.6ニ

社会の価値観に縛られ生きづらさを感じている女の子たちの短編小説。そこで出会うおじさんたちの思いがけなく何気ない言葉に救われる。その言葉は優しく「おまじない」のようにそっと包んでくれる。(Y.K)

『腕貫探偵』

西澤 保彦/著 実業之日本社 2005



913.6ニ

名前も年齢もプロフィールはすべて不詳、トレードマークは今どきあり?の黒い腕カバー。市民サービス課の職員・通称「腕貫探偵」に相談すれば(業務なのでももちろん無料)家庭の悩みから殺人事件までどんな謎でも即解決。(モフモフ)

『競歩王』

額賀 滯/著 光文社 2019



913.6ヌ

高校生で衝撃デビューを果たした作家の忍も今は大学生。描きたいものが見つけれず過ごす中、同じ大学で競歩に打ち込む八千代に出会い、スポーツ小説を書くことに。“誰よりも早く歩く”競技の真髄が存分に味わえる。(菅さん)

『九月が永遠に続けば』

沼田 まほかる/著 新潮社 2005



913.6ヌ

シングルマザー水沢佐知子の息子・文彦がある日突然姿を消した。文彦の行方を探す中で、佐知子は過去に起きた出来事と自分の周りの人間関係が複雑に絡まりあっていることを知っていく。重厚な長編サスペンス。(T)

『ハチミツ』

橋本 紡/著 新潮社 2012



913.6ハ

澗、環、杏の仲よし三姉妹は、歳は離れていても分かり合えていると思っていた。しかし、ある出来事がきっかけで3人の関係に変化が訪れ…。恋愛や仕事、自分の将来について、悩み多き三姉妹が綴るガールズ小説。(ずみやん)

『本多の狐』

羽太 雄平/著 講談社 1995



913.6ハ

何時いかなる時も素性を露にせず、陰に生きる忍集団・本多の狐が、徳川家の秘宝をめぐり、様々な苦難に立ち向かう。横手にゆかりのある土地や、本多正純公も登場する。はたして秘宝は手に入れられるのか。(砂糖さん)

『アコギなのカリッパなのか』

畠中 恵/著 実業之日本社 2006



元大物政治家の事務所
で働いている大学生・佐倉聖。事務所に
出入りする、一癖も二癖
もある政治家という名の
妖怪たちに翻弄される
毎日。次々に持ち込ま
れるトラブルを力と頭脳
で解決していく。

(モフモフ)

913.6 八

『総理の夫』

原田 マハ/著 実業之日本社 2013



日本史上初、女性総理
大臣・相馬凜子!…の、
ちょっと頼りない夫・日
和が主人公。慣例的な
性差への違和感や政治
への当事者意識、そして
為政者へ求める姿が見
えてくる、今の時代にこ
そ読みたい一冊。

(ふっくん)

913.6 八

『バベル』

福田 和代/著 文藝春秋 2014



新型ウイルス「バベル」
の大流行により日本社
会はパニックに陥る。事
態終結のため、政府は
感染者を隔離する「長
城」建設を決定した。つ
い先日までどこかで見
たような景色と、いつか
訪れるかもしれない未
来を描く。(ふっくん)

913.6 7

『私はあなたの瞳の林檎』

舞城 王太郎/著 講談社 2018



人を愛するには「好き」
だけでは足りない。少年
少女たちは、越えられな
い壁をどうにかして登
ろうと、もがき苦しむが
それが若さであり、過ち
でもある。3つの恋のオ
ムニバス。

(砂糖さん)

913.6 マ

『犬身』

松浦 理英子/著 朝日新聞社 2007

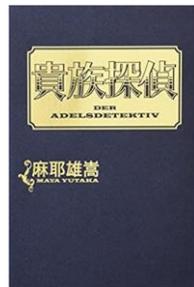


始まりは「犬になりたい」という気持ち。ひた
隠しにした思いを形にし
てくれたのは、謎の男・
朱尾だった。思いを寄せ
る玉石梓の飼い犬『フ
サ』となった房恵が、全
力で寄り添い、支え、梓
のために奮闘する日々
の物語。(砂糖さん)

913.6 マ

『貴族探偵』

麻耶 雄嵩/著 集英社 2010



難解な事件現場に颯
爽と現れ解決するの
は、警察すら手出しの
できない高貴な身分の
貴族様。それゆえ、推理
といった雑事は全て使
用人任せ。謎多き探偵
と、大胆で緻密なトリッ
クに翻弄されるミステリ
一短編集。(おこめ)

913.6 マ

『神去ななあ日常』

三浦 しおん/著 徳間書店 2009



913.6ミ

高校卒業後フリーターとして生きていこうと考えていた平野勇氣は、就職先を決めておいたと担任に告げられる。その場所は携帯も使えない林業の現場だった。山と共に暮らす村人との交流を経て少年が成長していく物語。(かぼちゃ)

『なりひらの恋』

三田 誠広/著 PHP 研究所 2010



913.6ミ

伊勢物語において美男子として有名な在原業平の生涯を、やさしく軽く描いた作品。現代風にアレンジされた主人公“なりひらくん”の恋物語も、作中に登場する和歌も、愉快かつ親しみやすいものとなっている。(T)

『背の眼』

道尾 秀介/著 幻冬舎 2005



913.6ミ

児童失踪事件が続く白峠村。そこで聞いた不気味な声や、村付近で撮られた、被写体の背中に人間の眼が写り込んだ写真は心霊現象なのか？霊現象探求家の真備と友人の作家「道尾秀介」が登場する戦慄の著者デビュー作。(Rin)

『誰かの家』

三津田 信三/著 講談社 2015



913.6ミ

…ことっ…ことっ。近づいてくるその音の正体は…。幽霊屋敷に忍び込むことになった少年たち。そこは何かがおかしかった。迫りくる“それら”から無事に逃げ切れるのか？「家」をテーマに怪奇短編6篇を収録。(ずみやん)

『砂子のなかより青き草』

宮木 あや子/著 平凡社 2014



913.6ミ

想う心は、時に抑えきれない程に燃え、胸を焦がす。いくつになっても女は女であるのだ。なき子こと清少納言の目線で綴られる心模様。古の時を経てよみがえる当時の人々の心情を感じ取ってみたい。(砂糖さん)

『史上最強の内閣』

室積 光/著 小学館 2010



913.6ム

非常時だけの実力派・期間限定内閣「ザ・キャビネット」が躍動！総理は二条友麿、京都人。大臣たちの名前やキャラも濃い。抱えている問題は深刻なのにみんなどんと構えていて、物語はコミカルだが、ほろりとする場面も。(こたら)

『毒母ですが、なにか』

山口 恵以子/著 新潮社 2017



913.6ヤ

りつ子の願いは自分を侮辱する人々を見返してやること。執念で東大に進学し玉の輿に乗るが、子供の誕生で益々ヒートアップ。揺るぎない自信と立ち直りの早さで我が道を突き進み、毒親と化してゆく姿をコミカルに描く。(A2)

『ずんずん！』

山本 一力/著 中央公論新社 2016



913.6ヤ

日々の環境の変化に合わせて確実な配達を成し遂げ、毎日同じことを繰り返すことに、ずんずん!と進む靴音のような醍醐味を感じている主人公。毎日牛乳を宅配する店主と地域の仲間から広がる人の絆や温かみを描く。(Y.K)

『あたり』

山本 甲士/著 文藝春秋 2008



913.6ヤ

「奇跡を信じたければ、釣りをするがいい」そんな言い伝えが残る地方都市が舞台の連作短編集。釣りをきっかけに連鎖する出会いは、大小様々な問題に直面する登場人物たちに清々しい変化の流れをもたらす。(ふっくん)

『日本婦道記』

山本 周五郎/著 新潮社 2018



913.6ヤ

身分制度の厳しかった江戸時代、凛として、またたおやかに家族のために生きた、あまたの武家の女性たちの物語。その実、戦時下での制約執筆を余儀なくされた作者の苦悩がにじみでた31の名編。秋田を舞台とするのは「郷土」(㊥)

『店長がいつぱい』

山本 幸久/著 光文社 2014



913.6ヤ

舞台は丼チェーン店の友々家。豚肉と玉ねぎを卵でとじた友々丼が売り。個性豊かな店長が主役の7つの物語は、どれもちよっぴり切ない。注文から、たった2分で提供される丼に込められた想いを、召し上がれ。(菅さん)

『ねこのうち』

柳 美里/著 河出書房新社 2016

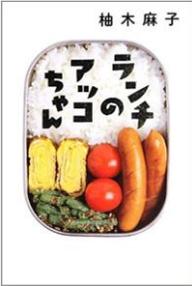


913.6ゴ

生まれてすぐに捨てられたねこと、そのねこが産んだ6匹の子ねこ。やがて引き取られ、飼い主と支え合いながらの生活が始まる。捨てられたねこたちの苦しみ、拾われて幸せに暮らす喜び…日々の生活をリアルに描く。(Y.K)

『ランチのアッコちゃん』

柚木 麻子/著 双葉社 2013



913.6 ㄱ

食欲が無く、会社に持参した弁当を食べずにいた三智子。代りにそれを食べた黒川部長から、弁当作りを依頼される。お礼は、部長の一週間のランチコース。三智子は、ランチで訪れた先で部長の様々な顔を知る。

(Monet)

『本と鍵の季節』

米澤 穂信/著 集英社 2018



913.6 ㄷ

図書委員の堀川は先輩に「亡くなった祖父の開かずの金庫を開けてほしい」と頼まれる。同じ図書委員の松倉と共に暗号を解き、鍵を開けようとするが…。男子高校生2人が図書室に持ち込まれる身近な謎に挑む連作集。(I.K)

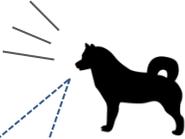
『トロンプルの星』

米田 夕歌里/著 集英社 2011



913.6 ㄷ

最近サトミのまわりでは、人や物が消えて「最初からなかった」とことになるという不可解な現象が起きていた。理不尽な現状を打破しようと奮闘するサトミだが、やがて抗えない運命に翻弄されていく。不思議で切ない物語。(パセリ)



ここからはエッセイやノンフィクションのジャンルから選んだおすすめ本です

『グダグダの種』

阿川 佐和子/著 大和書房 2007



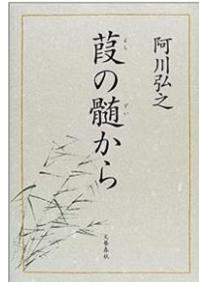
914.6 ㄦ

最近ベストセラー『聞く力』が有名なアガワさんの、ユーモアたっぷりの日常生活を描いたエッセイ。キャスター、小説家など多彩な活躍をしている著者の“グダグダ”な話は落ち込んでいるときでも癒される。

(モフモフ)

『葎の髓から』

阿川 弘之/著 文藝春秋 2000



914.6 ㄦ

今や阿川佐和子さんの父と言う方が通りが良くなってしまったが、名文家としてはやはり親子、似ている文章の使い方が散見される。旧仮名遣いで書かれた格調高く深い識見をのぞかせる直言には、頷かされる。

(⊕)

『かわいい子には旅をさせるな』

鷺沢 萌/著 大和書房 2004



914.6 サ

ユーモアたっぷりに語られる日常の数々。小説世界では端正な文章で魅了する著者が、本書では自身を大胆で豪快に描く。その中に時折現れる繊細さは、35歳の若さで自死を選んだ彼女の世界観を垣間見せる。(36)

『底辺女子高生』

豊島 ミホ/著 幻冬舎 2006



914.6 ト

スクールカーストや保健室登校といった著者のホロ苦い思い出が、自虐的かつコミカルに綴られたエッセイ。「本当の私」を探すため高校2年生にして13日間におよぶ家出旅行をしてしまうなど、その行動力に驚かされる。(I.K)

『本当はちがうんだ日記』

穂村 弘/著 集英社 2005



914.6 ホ

歌人・穂村弘が、日常生活で感じたことや自らのダメっぷりを自虐的に綴ったエッセイ。歌人ならではの独特な感性と、時に痛々しく、そして気の毒にも見えるシチュエーションにページをめくる手が止まらない。(T.T)

『海苔と卵と朝めし』

向田 邦子/著 河出書房新社 2018



914.6 ム

本当は板前になりたかったという著者の食いしん坊エッセイ傑作選。「思いの食卓」「ウチの手料理」など美味しい料理、好きな食べ物の紹介と共に、昭和の風景や人々のたたずまいが鮮やかに浮かんでくる味わい深い一冊。(Rin)

『ほんのちよっと当事者』

青山 ゆみこ/著 ミシマ社 2019



916 7

無知だった新社会人の頃の失敗や家族のことなど著者の体験談が赤裸々に書かれ、それらは社会の大きな問題につながっていたりする。他人事も、もしかしたら自分事かもしれない。考えさせられるノンフィクション。(こたら)

『主夫になろうよ!』

佐川 光晴/著 左右社 2015



916 サ

作家でありながら兼業主夫をする著者が、小学校教員の妻と子どもたちとの生活を「主夫」目線で描いたQ&Aあり、コラムあり、対談集ありの手記。家事は女性だけでなく、できる方ができることをやればいいという言葉が深い。(ノラネコ)

『わが盲想』

モハメド・オマル・アブデイン/著
ポプラ社 2013



突然の思いつきで来日した盲目のスーダン人。苦勞だらけの道だけど、泣いてあがいて挑戦する。友情とおいしいごはんに助けられ、とにかく何でもトライ! 著者しか持ち得ない視点で日本を描く新感覚エッセイ。(ふっくん)

916モ

『82年生まれ、キム・ジョン』

チョ・ナムジュ/著 斎藤 真理子/訳
筑摩書房 2018



キム・ジョン32歳、妻であり、1歳の女子の母である。人格が憑依する行動を起こしたことで受診したカウンセリングの様子が、赤裸々に描かれ物語が進む。女性を取り巻く差別や偏見が炙り出され、社会的な問題提起となった一冊。(菅さん)

929.1フ

『夜のサーカス』

エリン・モーゲンスターン/著
宇佐川 晶子/訳 早川書房 2012



突如現れた夜にだけ開くサーカス。待っていたのは心惹かれるショウの数々。しかしその裏では2人の魔術師が熾烈な戦いを繰り広げていた。幻想的なサーカスを舞台に魔術師たちの戦いに翻弄される人々を描く群像劇。(まる。)

933.7モ

『幼年期の終わり』

クラーク アーサー・チャールズ/著
池田 真紀子/訳 光文社 2007



『2001年宇宙の旅』の著者による名作SF。突如飛来した高度な知性を持つ異星人のわずかな介入により、平和な理想郷を手にした人類は、生物として更なる進化を迎える。荘厳で物悲しいラストシーンは必見。(ふっくん)

933.7ク

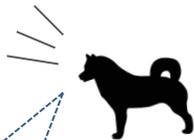
『ファイト・クラブ』

チャック・パラニューク/著 池田 真紀子/訳
早川書房 1999



不眠症の“ぼく”は謎の男タイラーと出会い、ファイトクラブを結成する。ここでは男たちが素手で殴り合うことで生きる実感を得ていた。組織は拡大し、社会をも巻き込む破壊工作を企てる。タイラーの真の目的とは一。(わいわい)

933.7パ



ここからは外国の作家による作品から選んだおすすめ本です

『エミリーへの手紙』

キャムロン・ライト/著 日本放送出版協会
小田島則子, 小田島恒志/訳 2002



933㉿

アルツハイマーと思われる症状が進行し、自分を保てる時間も少なくなっていく中で必死に完成させた自作の詩集。この本にはたくさんの秘密が詰まっていた。壊れかけた家族の絆を老人の想いがつなく。家族の愛の物語。(S)

『天のろくろ』

アーシュラ・K.ル=グウィン/著 脇 明子/訳
ブッキング 2006



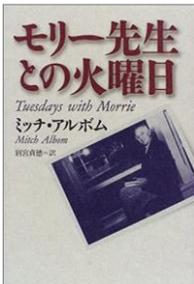
933㉿

今や伝説になったサンリオ文庫からの復刊。みた夢が全て現実になってしまう主人公オアとそれを治療するはずの精神科医ヘイバー博士。差別がなくなればと、全人類の肌の色が灰色になった世界はどうなるのか。

(㊥)

『モーリー先生との火曜日』

ミッチ・アルボム/著 別宮 貞徳/訳
NHK 出版 1998



936㉿

16年ぶりに再会した恩師は体の自由が奪われていく難病 ALS に侵されていた。余命わずかでも明るく前向きなモーリー先生は、元教え子に最後の授業を行う。生きる上で大切なものは何か、人生の本質を教えてくれる一冊。(わいわい)

『猫たちを救う犬』

フィリップ・ゴンザレス ほか/著
内田 昌之/訳 草思社 1996



936㉿

元・保護犬のジニーは虐待や飢え、先天性の障害など様々な困難を抱える猫たちを見つけては、飼い主のフィリップに知らせるのだった。命の尊さと動物への愛情を綴った感動の手記。1990年代の米国が舞台。(S)

『ぼくは君たちを憎まないことにした』

アントワヌ・レリス/著
土居 佳代子/訳 ポプラ社 2016



956㉿

2015年11月、130名以上の死者を出したパリ同時多発テロ。テロリストへの怒りが渦巻く中で「君たちを憎まない」とSNSに投稿した著者。最愛の妻を失う混沌の中、残された1歳半の息子と生きる勇気を見出していく12日間の記録。(Rin)

『白の闇』

ジョゼ・サラマーゴ/著 雨沢 泰/訳
河出書房新社 2020



969.3㉿

突如として街に襲いかかる失明する感染症。政治判断で施設に隔離された患者たちの身に待ち受けるものとは。そしてミルク色の闇は晴れるのか。ノーベル文学賞作家のディストピア小説。

(T.T)

ヨコワン 2020
図書館員が選んだおすすめ本 100 冊

2020 年 10 月 23 日

横手市立図書館

【問合せ】

図書館課(雄物川図書館) 電話 0182-22-2300

〒013-0205 横手市雄物川町今宿字鳴田 133